

資料11-4

廃棄体検討WGの実施状況

(独)日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
廃棄物対策・埋設事業統括部

平成27年2月12日

廃棄体検討WGの実施状況

—平成26年度の実績—

平成26年度に実施した廃棄体検討WG会合(以下、「WG」という。)について以下の通り報告する。

第5回WG会合

① 日時・場所

平成26年10月9日 13:30～15:20 JAEA東京事務所

② 議事と概要

- 1) 廃棄体検討WGの今後の進め方について
 - 平成29年度に基本設計に着手することを目標にスケジュールを再設定
- 2) 廃棄体作製に係る品質保証の基本的な考え方
 - 機構における廃棄体作製に係る品質保証の基本的な考え方の事例を紹介
 - 発生者・処理事業者・埋設事業者それぞれ品質保証体系を組み合わせる仕組み・監査の方法は今後検討
- 3) 日本アイソトープ協会における廃棄体の作製について
 - 日本アイソトープ協会にて作製予定の廃棄体について説明を行うとともに、当該廃棄体のトレンチ処分への適応の確認
 - 事務局より当該廃棄体のトレンチ処分適応確認に対する回答案を提示し、WGとして了解
- 4) 廃棄体輸送に関する検討項目について
 - 廃棄体輸送に関する検討項目について、概要・当面検討する事項を説明

第6回WG会合

① 日時・場所

平成27年1月26日 13:30～15:30 JAEA東京事務所

② 議事と概要

- 1) 日本アイソトープ協会における廃棄体の作製について
 - 仮焼残渣の溶融処理について、今年度の進捗状況を紹介
- 2) 日本アイソトープ協会における輸送容器の検討
 - 日本アイソトープ協会が設計、作製したA型輸送容器の仕様と実施した試験について紹介
- 3) RANDECにおける品質保証及び輸送に関する検討状況
 - RANDECが検討を行っている廃棄物データベース、廃棄物輸送について紹介
 - IAEAの輸送規則見直しがあるため、合理化の観点からの要望がある場合には機構に情報提供する。
- 4) 多重規制に係る許認可申請について
 - RI廃棄物を含めた重要核種の決定に必要な評価対象核種の選定と基準線量相当濃度の試算について説明
 - 本件について各者で内容の確認を行う

廃棄体検討WGの実施状況

－日本アイソトープ協会の作製する廃棄体について－

第5回WG会合において、日本アイソトープ協会が作製を予定している溶融物固化体のトレンチ処分への適応について確認依頼があった。

WG事務局より機構が実施した研究施設等廃棄物浅地中処分施設の概念設計での当該固化体の扱いとして以下の回答を行い、WGとして合意した。

○ 当該固化体は焼却・仮焼処理後に発生する残渣を溶融処理後にスラグ化した物を固化した物。



○ **充填固化体又は均質・均一固化体に相当**すると考えられる。



○ 概念設計においてトレンチ埋設施設への処分が想定される主要な廃棄体の性状を2つに分類し、それぞれに応じた施設形式を想定。

① コンクリート、金属等の安定五品目に相当するもの
⇒安定型トレンチ

② 溶融、圧縮等の処理をし、収納した容器にコンクリート等を充填した**充填固化体又は均質・均一固化体**(安定五品目に相当しないもの)
⇒付加機能型トレンチ



日本アイソトープ協会が作製する溶融物固化体を処分する場合、放射能濃度の点からトレンチ処分に適合する場合には、概念設計上は**付加機能型トレンチ相当物に分類され**ると考えられる。

なお、付加機能型トレンチでの処分に係る規制制度整備の支援にあたっては各者間で協力する。